

## トマス・ウイン書簡 その二

鈴木進訳

一八八六年二月二日  
ニューヨーク市西三六番通二三二にて  
ミッチェル博士あて

ご依頼に答えて、本日お願いした二つの問題につき書き加えましよう。

最近受けとったポーター師の手紙によると日本政府は金沢にカレッジかあるいは極めて程度の高い学校を設置しようと考えている、と書いてきました。これは帝国の各地に設けようと計画している数校のひとつなのです。文部省の中で二番目の地位にある役人が金沢にきて、われわれの両校を視察し十分に満足の意を表わした、ということなのです。さらにその後のミス・ヘッサーからの手紙では、政府としてはそれが可能なら、金沢に計画している学校の教師として宣教師を、ともかくも確保しておきたい、との話だと書いてきました。本部としてはポーター師にこの件についての調査をさせ、政府の意図が何なのか、また政府が宣教師の助けを得たいと思っっているのかどうか確認させたらよいのではないかとふと思いついたので、もし政府が望むなら、伝道局としてはこのような条件の人物を

きつと見つけられるでしょう。そして契約通り当校で教授する以外の時間は宣教活動をしなくてもまったく問題にならないだろうと思うのです。

〔以下判読不可能〕

一八八七年七月二日  
イリノイ州ゲールズバーグにて  
ミッチェル博士あて

ほんのわずかの期間ですが、キャンザス市の兄を訪ねて帰ってきたところなのです。

先月二五日付のあなたの葉書は留守中に届きました。旅行から今日戻って急いで返事を書いているところです。

私の体の状態について見通しは良くない、としか申上げられず残念に思います。教団大会の数日前に胆嚢炎に罹り、会に間に合うように回復しなかつたので出席できませんでした。それに近頃またひ

どい眼の出血がありました。この秋には日本に帰れるものと期待しておりましたのに、ナツプ医師も日本のテイラー医師もペオリアのミラー医師もゲルズバーグの「判読不可」医師もみな優れた医者たちであると思いますが、今は日本の仕事に戻らないほうが良いと言うのです。二度とふたたび日本に戻ってはいけなさと考えている人もいるようです。医者言うことを聞いて、できるだけ医者診断どうり注意するならば、日本に帰る約束を今するのは適当でないような気がしているのです。

そこで、しばらくは兄の事業を手伝いながら主の導きを待つことに決めました。九月一日までには兄のところへ行つて、その後は伝道局との関係を切らなくてはならないでしょう。あなたの判断でただちにボードとの関係を断ち、給与も受けられないようにしたほうがよいとお思いでしたら、すぐお知らせいただきたい。この夏は何か教会の中の仕事をすることになるかと思ひます。伝道局には、これらの二ヶ月は月六〇ドルだけをお願いしようと思ひます。もつともその間を伝道局と何らかの関係を維持してもよいとお考えになるならばの話ですが。約九ヶ月間は伝道局からいくらかの給与を引出すくらいはできましよう。そのほかに現在までに一、五四〇ドルを別途の献金として伝道局のために調達して私のもとにございます。二、三ヶ月のうちそれを会計に納めようと思ひつています。夏の間、この額を少しばかりふやせるかもしれません。

ご記憶でしょうが私は営利につながらない、つまり伝道局の目的から外れないお金なら集めてもよいと許可を得てあります。本部に入れるつもりで私が出たお金で、私の訪ねた教会に寄付を求めたことはありません、また伝手のある人にお金を請求したこともありません。そのお金の一部は日本の風俗習慣について講演をしてもらった

ものです。この種のお金はまったく伝道局会計に入りそうにないのです。したがって私はあなたの指示に少しも背いていないと思ひます。帰国後の年月を伝道のために少しは尽し得たのをうれしく思ひつています。もしも将来私に海外に行ける道が開かれるならば、日本行きを志願できる光栄をいただきつつ辞任したいものと思ひつてい

ます。いつでも伝道局の働きの助けとなることがあれば、たといそれがどんなに小さな仕事であっても私に援助を求められるのは、それは私にとって大きな喜びとなります。

ラウリー博士、エリンウッド、ギレスピー各氏によく伝えて下さい。宣教師として任命を受けてからの年月、その間つねに私たちに示して下さいた伝道局のご好意と親切は決して忘れません。どうぞ伝道局の皆様にご心から感謝していると伝え下さい。

伝道局がつねに主に導かれ、課せられた責任を果たし、あらゆる国の人々に福音を宣べ伝える働きがますます大きくなるように、私たちは願ひかつ祈るものであります。

敬具

トス・シー・ウィン

神学博士ミッチェルあて

一八八八年七月二十七日  
東京 築地四二番地にて

拝啓

日本に戻ってから便りをしなかったのを私の怠慢のせいと思われるかと困るのですが、ひとつだけ弁解するのをお許しただくなら、手紙を書く手もその思いも他のことでも塞がってしまいました。私が日本に帰ってから、特に居を定めることについて困った問題が起こりました。解決のために、多くの時間と考を要しております。

三ヶ月前横浜に着いてみると、ヘイズ夫妻は旅券に関して政府のきびしい措置のため、やむなく金沢を去り神戸に移っていることがわかりました。ホワース夫妻も夫人の病気のため金沢を去ってもう一年ちかく同じく神戸に行っております。そこで私はできるだけ早く金沢に行かなくてはならなくなりました。ところが旅券の発行に関して政府の方針に変更があり、すぐに金沢に行ける唯一の方法は、その地方の高等学校の教師を引受けることだけ、ということになってしまいました。私はそれを引受け、一日二時間その仕事に当たり、二ヶ月たらずの間月百円を受取っていました。政府の学校との契約が切れるとただちに、金沢に残るための許可を得、かつ引き続き滞在できる旅券が得られるように骨折ってみました。法律の範囲内で許される手立はことごとくやってみたのですが、うまくゆかず、その結果先週私と家族全員辛い長旅をしてここに着き、現在は政府から金沢に戻って居を定める許可が下りるのをひたすら待っているだけなのです。このようにして過ごすのもあと二、三週間で済むよう

にと願っているのです。しかしそれより短くなる筈はないでしょう。富山を経由して東京に参りましたが、そこには日本人の伝道師と婦人伝道師を駐在させております。富山の伝道は少しは前進しております。そこにいる間に私は大勢の聴衆に説教をいたしました。富山にはたった一日しかいなかったのですが、町の有力者二人と富山に英語学校を始める相談をして時間を使いました。もし地元の人たちが必要な土地を寄付して下さるなら、その種の学校を始めることもあり得る、と私は申しておきました。この問題については役人たちが訪ね協議しました。おそらく学校開設は可能であろう、との返事でした。この計画のために自分たちも働きかけをし、尽力いたしましょうと言っています。われわれにとつて問題なのは、この新しい仕事に誰かが当たるかということです。ポーター師は夫人の病気のためにこの秋から無期限に（少なくとも数ヶ月間）金沢を離れなくてはなりません。夫人には病気治療が必要なのだが、金沢ではそれが受けられないのです。

そういうわけで後に残るヘイズ氏と私だけで金沢でのあらゆる仕事をすることになるでしょう。私は金沢地方の伝道に携わるしかるべき人物がいらないことに心を痛めています。私が金沢に行けるようになったとしてもです。この秋に赴任予定の方々があの地方に配属され、さらにポーター師ももう二、三年頑張ってくれるなら、どうかやってゆけるのですが。敷地が与えられ招きを受けるならば、今のところよい関係にあると思われる富山に学校を始められそうです。その方面の伝道に取り組まないとしたら大切な機会を逃すことになりそうです。県の有力者たちの後楯をもってすれば学校はすぐにも大きくなり、市民の間に名が知られるようになります。設立が促進され（市民が資金を寄付している）。また普通のクリスチャン・

スクールのカラーを取り除いているので人々の間でも好評を受けることでしょう。われわれの学校事業にいつそう好意が寄せられるだけでなく、宣教師たちが県の学校で一日一時間授業する機会も与えられ、自分たちの給与の三割かまたは半分をミッション会計に戻せることになりました。障害が排除されるなら、私たち夫婦がこの仕事を引受けるのにこれ以上の喜びはありません。日本語をある程度知っている者が行くのが絶対必要だと思います。しかしわれわれの間で今のところとかく日本語を使えるのはポーター師と私だけにすぎません。ポーター師が金沢に残れるなら新任の一人を連れて私が行く。ポーター師が誰か同僚と一緒に行くなら私が金沢に残りません。しかしポーター師の動きが未定なので富山の仕事を引受けるかどうか目下のところ決められません。すぐにでも必要となる校舎の建築資金については金沢にいる同僚たちが寄付をすることでしょう。もしも任命された四人をわれわれの地方に配置するのはよくないと考えられるのでしたら、伝道局がここ二、三ヶ月のうちに一名ないし二名、それに相応しい人物をさがして下さると約束ができますか。われわれの条件に叶った土地が寄付されるかどうかなどはもちろん明らかにされていませんが、いずれにせよ今述べたような人物がもっと必要になると思います。

今のところ私の健康は良好です。どんな仕事をしてもぜんぜん不自由がありませんし、日本に戻って来たのは間違っていないなかつたと思います。人間的な思いを述べるならば、この時期に日本において、宣教の業に従事する必要があるかと私には思われます。

昨年受取った九百一ドルの記録は大いに励みとなりました。

妻と私から真心を込めて、皆様によろしく

トス・シーウィン

神学博士ミツチエルあて

拜啓 東京に滞在中の七月二七日に差上げた私の手紙に答えて、どこかニューヨークの町発信になっているあなたの返事が数日前に届きました。日本のこの地方の伝道についてお知らせし、宣教のために皆様の心を動かすことができたのを知って大変嬉しく思っております。

私には興味深く、さらにここでの伝道の一端を物語る事例と思われる二、三のことを記しましょう。

隠れた信仰者と求道者たち

教理を教えているグループの中に一人の受洗志願者がいてここ数ヶ月間ずっと出席しております。二、三週前の聖日に彼がいかに熱心に真理を求めているかを物語るいくつかの質問をしました。数日後教会の長老の一人に出会った時、彼が私に語ったところによれば「あつ、そうだ。Hさんのことを話すのを忘れるところでした。彼は亡くなられたのです」と。聞いてみると私がさきに申した聖日が彼にとってこの世での最後の日だったのでした。その時は大変元気だったのにその後数時間煩つてその翌日亡くなったのでした。私は長老に「あの人は信仰をもっていたと思います」と言いました。するとその長老も「確かにあの人は心から信じていたと思います」と答えました。「経済的には恵まれていなかったが福音宣教を支えようとして惜まらず献金していました。彼の子供もほとんどいつの日曜日も献金箱にお金を入れていました。」

八八年十月二〇日  
金沢にて

もうひとつの例は一、二年前のこと、金沢教会に受入れられたある婦人の場合で、大変興味深いものです。今はその人の妹が集会に出席し受洗を望んでおります。妹の方が二、三日前妻に次のような話をしてくれました。その人の父親が九年前この町で亡くなったのです。ところが近頃お父さんの遺品を調べていたら、彼が病気の時に新約聖書とキリスト教書籍数冊を隠し持っていたことがわかりました。恐らく聖書の研究をしているのを知られたくなかったのだろうということ。その頃町の人々の中にはキリスト教に対して強い反対があつたからです。姉妹は、まことの神様について何も知らないままずっと以前に亡くなったとばかり思っていた父親のこの事実を知って二人の心は少なからず喜びで満たされました。これらの二つの例からも明らかのように、キリストの真理を心に受け入れたと思われるものが十分に見られるのだが、その名前を教会の記録に記されていない多くの人々がいるのは確かです。主のあわれみは全く暗闇の生活からわけもわからず主を求めている人々にも及ぶ、その偉大な神の名が称えられますように。

全員クリスチャンの一家について

先週の聖日第一教会ではいつものように聖餐式が行なわれました。その礼拝に出席しようとして一八マイルも離れた山の中の村から一人の農夫がやってきました。彼の息子は京都にあるアメリカン・ボードの学校で学んでいるうち、そこでクリスチャンになりました。この息子が遠い故郷に救いの福音を伝え、今では彼の両親、その息子、二人の娘とも皆クリスチャンです。一家には小さな子供が二人いますが、公立の学校に行かせないで家庭で教育をしています。クリスチャンでない子供たちと付き合つてよくないことを身につけないよ

うに用心し、両親が強くそれを望んでいるのです。

この農夫が礼拝の席に着き、共に主の晩餐に与かっている姿を見ると私は喜びの気持ちでいっぱいになります。ずっと離れた山の中の町の一家全員が信仰をもつ家族とされたとは思議なことです。昨晩の祈禱会に息子の方が出席していて、故郷の町ではクリスチャン同志の交わりが全々ないか、あつたとしてもごく僅かであるが、そのような時も神共にいます喜びを持たた事実を証ししたいと申しました。この一家がキリスト教について最初に近所の人々に語つた時には誰一人耳を貸そうとしませんでした。今では皆が聞いてくれるようになっていきます。一家の長男が最近町長の役目を勤めるように選ばれました。数年前にはそのようなことは考えられなかったことだろうと思います。

このような事例によつて、辺鄙な地方にも主の真理が入り込み人々の関心を得ているのがわかります。

富山に学校開設の件

七月に手紙を書いた時に、富山の伝道は将来希望がもてそうである、とご報告しました。われわれが校舎を用意し学校を建てると言えば、敷地は地元の人たちが寄付するつもりでおります。地元の申出を受けてもその方面に行ける条件の人が現在のところ誰れもおりません。来年の春までにはポーター師か、あるいは私がすでに述べたよりもよい条件で行けるのかも知れません。富山県の高官の夫人たちが婦人伝道師の勧めに従つて女学校を開きました。その人たちが教師の給料以外のすべてを支えていてくれます。このようにして始まった学校はクリスチャンスクールです。半年だけ試験的にしてみるといふ約束だと思いますが、もちろん成功すれば彼らが放棄す

ることはないでしょう。

伝道局がお示しの住宅費支給節約の案については、私は一戸の住宅に三千ドルは絶対いらないと考えています。与えられた金額の中で、私の住宅の分は二千ドル以上使うことはありません。私の住宅は部屋数が八つ、子供たちのための小さな勉強部屋、他に地下室、使用人の部屋が二つあります。一戸の住宅に二千五百ドル以上かけるのには良心が咎めて賛成できません。伝道局として、その額を越えられない限度というものがあるように思われます。もちろんこれは金沢の場合ではあるが、それだけあればまあ大抵の所では十分であらうと思います。住宅について私の考えは、子供のいない夫婦の場合は、その家族に合わせて家を建てるのが望ましいでしょう。伝道局は当面は必要でない大きな家を建てるより、必要が切実となった時に快く追加の金額を助成するのがよいでしょう。本部として、このように多額のお金をもっと長期にわたり活用し、不要な大きい住宅の修理には支出しないことです。

私の住宅用として支出された三千ドルの残りは男子の学校に転用しました。それが無ければやってこれなかつたのです。もちろん金沢のミッションの同意は得てあります。ボーイズ・スクールとヘイズ住宅と学校の校庭の続きに位置する辺りは大変すてきな所です。このことについては改めて書きましよう。妻からもよろしくのとこのとです。

敬具

テイ・シー・ウイン

神学博士アーサー・ミッチェルあて

一八八九年五月二九日  
金沢にて

二、三日前に写真を六枚送りました。どの写真も二枚ずつあります。ハンセン氏がミッションの建物全部の写真が欲しい、と書いてきましたので、それにいつかあなたがミッションの建物を取った写真を一枚ずつ依頼されたのを思い出したからです。私の住宅の写真は差上げますが、学校の写真代はミッション支払にしております。学校のはあなたに送ったその他の建物のほど出来がよくありません。クリスチャンは主キリストを告白したが由にどんな辛抱にも耐えなくてはならないとはわかつていても、信者のことは無視してクリスチャンでない者をひいきにするのをいつも嫌な思いをしているのです。送った写真のできばえに違いがあることをみてもそれがわかります。

今から二週間前、嬉しいことに金沢第二教会の献堂式の礼拝をいたしました。その群はまだ力弱い者たちですが、新しい会堂を建てるための費用の一部を献金しました。残りのお金についてはペントン氏とミス・バラの寄付による分を除いて、われわれミッションのメンバーが調達しました。ペントンとバラの二人は宣教師ではありませんが熱心なクリスチャンで、金沢での伝道に深い関心を寄せております。

新しい教会堂はきわめて簡素でしかも適切な数の会衆を収容できる広さであると思います。礼拝の順序は私の記憶では次の通りでした(あいだあいだに歌われた讚美歌は省きます)。先ず祈禱、講義所として始まった教会の歩み、会堂建築委員会の報告、献堂の祈り、説教、式辞、祝禱。戸田牧師の話は大変立派なものだったと思いま

## トマス・ウィン書簡 その二

す。その考えの開陳でした。題は「燈台としての教会」というので、戸田牧師はハリス基金の援助を受けたこの地方出身の伝道者です。すぐれた人物で主に対して忠実な働きをしています。日本でも最初に按手を受けたうちの一人です。彼の話の中で「この地方は自分が今まで働いてきた中でも最も伝道困難な地域である。日本のこの地方がキリスト教化する時には、もう他に伝道の要はなくなることでしよう」と。

四月二五日付の手紙、今日届きました。年次報告が遅い、と書いておられます。年の初めにブライアン氏が手紙を書くように求められ、そうしてくれたものと思っておりました。そのように長く手紙を待つのは耐え難いことだったでしょう。そのうえやつと届いた手紙にも失望なごったにちがいありません。

もうひとつ、ステーションナリズムという問題が書かれていますが、われわれとしてはそのようなことに煩わされていることはないと思います。誰れが何を書いたのか私には見当が付きません。過去に二回ほど意見のくい違いが生じたことはありますが、その両方とも極めて円満に解決しミッション全体が完全に納得しています。私の知るところでは目下ミッション内に意見を異ならせるものは何もありませんし、また恐らく党派心や仲違いが生じることはなさそうです。それはそれとして、ご忠告、勧告喜んでお受けします。そして主の助けにより課された使命を果たそうと思えます。われわれが学んだ法則はただ信じることのみがステーションおよびミッションに栄えと幸せをもたらす鍵となるということです。私はその実践に努めてきました。またその重要性を他の人にも説いてまいります。このように書きましたから、私の知る限り今われわれの間では一致団結していることに気付かれたでしょう。われわれの福利に関する問題のことを

いつか知らせたいと望まれるならば、喜んでそういたしますが続けて何か事業をするのは適当でないと思います。しかし人に関して、別で、しばらく前にお嬢様のミッチェル医師をこのステーションに派遣してほしいと書きました。あの時申し上げましたように、マカーティ博士がミッチェル医師はどうかと言われてお名前を知ったのです。この件につきましてあなたから何もお聞かせいただけなくて大変失望しております。ヘイズ夫妻、テイラー夫妻が止むなく金沢を去りました。来月には近くに医者がいる大阪に行き、すぐれた医者診療を受ける必要があるのです。彼らはこの地に医者を確保しようとしてあらゆる努力がなされるまで金沢を去る決心がつかなかったのです。危険をおかしてまで金沢にこのまま留まって日本人の医師に頼るようなことはしないように言われたのです。わが家の子供三人が全身に発疹状のものが出て寝ております。ここでは誰もその病名がわかりません。子供たちの症状はあまり重くなくさうです。病気の性質と結果について知りたいと思わないわけにはありません。二人とも麻疹には二度（一度は日本で、もう一度はアメリカで）罹っているので更に麻疹にかかることはあり得ないので、私がこのように書いてるのは、われわれが不安を覚え、主が必要を覚えられ主の名によって与えられる苦難を本意である、といっているのではなく、ただステーションの仕事を続ける上に医療の備えがいかに無くてならぬものかを知ってもらいたいからなのです。ミッチェル医師が来られないなら、男女を問わず早急に金沢に派遣できる人物はほかにいないのですか。伝道局としてはこの場合ミッションより出される通常の医者派遣の手続きに従わなくてもよいように思います。伝道局の全員が金沢にそのような人物を送らなくてはいいけないと考えているのですから。そのような人物がいな

いということではいかに仕事が無理になってしまうか、容易におわかりいただけるところでしょう。今後多かれ少なかれ同様の問題は起り得ます。医者派遣についての考えをお聞かせ下さい。

敬具

トス・シー・ウイン

一八九〇年二月十八日

金沢にて

サムエル・ジュサップ牧師あて

ミツチエル博士が金沢にいられた時に、金沢ボーイズ・スクールに寄宿舎を設けたいとその計画を話したところ、彼は賛意を表し、その件につき自分も伝道局に手紙を書きましようと思われ、また同時に私にも書いてはどうかということでした。長いこと手間どつてしまいました。今それを書いて、出来る限り早急にご解答下さるようお願いいたします。

ボーイズ・スクールの後援者たちは寄宿舎建設のために寄付を望んでおられるので、私がこれから述べようとしている伝道局負担分は百ドル以上にならないでしょう。昨年の秋だったと思いますが、私たち夫婦が伝道局に対して特に目的を指定しない百ドルの寄付をミッション会計に納めました。私たちとしては金沢ボーイズ・スクール寄宿舎建設用としてミッション会計担当者はその金額を支出するために、伝道局としての許可を与えて下さるようお願いしたいのです。もちろんステーションの承認は求めません。そして恐らくはミ

ッションの承認もです。もしもそれを希望すれば、ステーションとミッションの承認に基づいての支出に同意するでしょう。この件に関してミッションには意見を求めていません。手紙を書くまでに相談する時間がなかったのです。これを始める前にミッションの意見を待たしたとしても、本部からの返事を手にしないうちにたぶんお金の方は必要となるでしょう。こういう形で補助金申請を行い、ミッションには事後承認を求めるとやり方があなたの目には変則である、とうつるならば、その事実は認めましょう。ミッションはこの提案に必ず同意してくれるものと確信しているので、あえてこのような手順を選んだのです。

今年の金沢の冬は温暖といえるほど大変異常な天候です。老人でさえこのようなことは聞いたことがない、と言っています。このような冬の年には国中に病気が発生することがありそうなのです。ステーションのネイラー夫人はこれでもう一ヶ月ほど腸チフスで伏せています。病状が割に軽い、と報告できるのは感謝です。私たちの経験によれば日本人の医者では十分でないのでミス・ヘッサと妻が看護の責任をもっています。ここ数日間、ごくわずかですが良くなってきたようです。そのうちに全快の報告をしたい、と思っています。私たちがお願いしても何の援助も得られず金沢の者たちが不安な時期を過ごしておりましたところ、以前わが伝道局のもとに中国で働いていたケルシー医師が十二月に横浜からやって来られ二週間ほど滞在し、外国人宣教師と日本人の両方の治療にあたりてくれました。彼女が来てくれたお蔭で、冬には大阪に行つて治療を受ける筈だったミス・ヘッサは行かずに済みました。ネイラー夫人が腸チフスの時にケルシー医師がいなかったら、いったいわれわれに何が出来ただろうか、私には見当もつきません。ステーション

## トマス・ウィン書簡 その二

ンが伝道局に対してケルシー医師を金沢に任命して下さい、とその名前をあげていいならば、ステーションとして要請の責任を負います。彼女からはまだ返事をもらっていません。私としては後日伝道局にその要請をいたします。

私は、いや言い直しましょう、私たちは会計担当のダラス氏に心からお礼を申し上げたい。ミッション・ハウス発送の箱の中においしいオート・ミールの大缶二つも入っているのを二、三週間前に受取りました。缶には「会計係からのお年玉」と書いてありました。

テー・シー・ウィン

一八九〇年四月一四日

横浜にて

ニューヨーク五番街五三番  
サミュエル・ジェサップ牧師あて

ミッションの用事と私の兄、上海のウィン医師一家を見送るため、金沢から横浜にきています。数ヶ月前、われわれ大阪ミッションとしては、金沢とその周辺にステーションを設ける場合に備え、ミス・ケルシーを伝道局に医者として任命して下さるよう要請したのを憶えておられるでしょう。金沢の医者の問題に関して本部は、ミス・ケルシーの決心を聞くまで何らかの行動をせず待つべきです。もしミス・ケルシーが来てくれるならば（目下のところ秋の初めに金沢に来る可能性あり）、金沢からの医者派遣要請は不要になります。私が彼女を伝道局よりの任命にして欲しいと書いた時には、他の方法

でもって彼女が金沢に来るのを考えているとは知らなかったのです。しかし彼女が婦人宣教団のもとに赴任するならば、本国の医者を金沢に送ってほしいと要求したことに對し、費用を支出せずに医者が備えられることとなります。今ちょうどミス・ケルシー医師を訪問して帰ったところですが、彼女の所属する伝道団（ウォマンズ・ユニオン）に手紙を書いて、横浜から金沢への移動の許可を求めた、というのです。さらに言葉を加え、彼女の伝道団は恐らくその移動を許可するだろうし、そう信じてよい根拠があるという話でした。もちろん私はミッションの中の一個人の資格でこれを書いているにすぎませんが、それは思慮のないことではなく、ミッションの皆も賛成してくれるものと思うからです。

今も言った通り、これは私の一存でやったことで責任は私にあります。本部としてもケルシー医師着任を促し、ミッションの皆にもそれに従うように勧めて下さい。ステーションの皆はすこぶる元気にしています。ネイラー夫人はもちろんまだ十分健康とは言えないのですが、チフスは良くなっています。私は明日ここを立つて帰途に向います。ミッチェル博士はいつニューヨークに到着しますか。年度末が近づいて本部の財政の見通はいかがなものでしょうか。

トス・シー・ウィン

敬具

一八九〇年九月一八日

金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番地

神学博士アーサー・ミッチェル牧師あて

今ちようど年次総会を閉会したところです。今年は金沢が会場でした。実務上の会議の他、数回にわたる会を説教で閉じる形の祈禱会と、昨夜は主の晩餐を行いました。私たち皆にとつて靈的に大変恵まれた時でした。最初から主のご臨在はあきらかでした。もう一度あなたが一緒でしたらよかったですであろうに、と思いましたがあなたが読みたいと思つていらつしやる議事録は書記係が完全な形で報告することでしょう。その報告書に何か追加しようというのではありません。ミツシヨンの指名を受けて私が行なつた特別の用件について書いてあるのです。ヘイズ氏の配置換えと仕事についてミツシヨンの決議したことを本部に知らせて訴える、と彼がいつてきたのに対して、ミツシヨンとしてはアレグザンダー師と私がその弁明をするように要請を受けたのです。決議された内容は「ヘイズ夫妻に富山転属を求めろ」というものです。この問題について伝道局としては私にどのような役割をさせたいと思つておられるのか、適当な時期に本部に提起して下さいませうか。

あなたがせっかくミツシヨンの間を巡回旅行なさつても、まだ十分にはその効果を奏していないことに私たちは心を痛めております。この時にもう一度伝道局でのあなたの本務に十分戻られたものと思つております。

一同、あなたと奥さまに呉々もよろしくと申しております。

敬具

トス・シー・ウイン

追伸 書くのを忘れておりました。八月二八日、子供が誕生。母子とも健康です。

一八九二年三月五日

金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番地

神学博士アーサー・ミッチェル牧師あて

拝啓 今ちようどアレグザンダー師から葉書を受取つたところで、来年度用ミツシヨン外予算書を二日後大阪からニューヨークに発送する、と知らせてきました。それに関して短い手紙を書かなくてはならないと思つております。

金沢ステーションの予算の中で、神学生の項目が、私の前に考えていたよりもずっと多くなつておられるのにお気づきでしょう。金沢ボーイズ・スクールを卒業して、現在明治学院に在学している者が三名おります。今年のクラスの中には神学生として明治学院に進学する予定の者、つまり一年以上普通教育を受けてから神学校に入学する者ですが、四、五名含まれております。この学生たちがこのまま学業を続けることになれば、私たちが請求したお金がすべて必要となります。卒業学年中八名の青年が明治学院に進むものと思われます。ただしそのうちの四人だけに援助が必要です。今私たちは学校の制度改革を考えております。もしその通り実施されるならば、学生の五分の一を明治学院に譲ることになります。その項目について

## トマス・ウィン書簡 その二

は絶対に削減されないように心から願うものであります。わが校の在学生の援助としては百五十ドルを請求してあります。これまでこの金額の中には何らかの形でミッションの援助を受け、将来牧師になる見込の神学生のみが入っていました。牧師になるように勉強中の学生で私的な奨学金をもらっている者もあり、神学生としての分類には入っていないが、特定の個人の援助を受けている者もあります。神学生であろうと一般学生であろうと、彼らを援助するために請求した百五十ドルの使い方が、主に導かれて正しい判断ができますように。援助に価する者だけに用いられるように、できる限り賢く注意を払わなくてはならないのは当然のことです。本校で最も前途有望な学生たちが、われわれの、あるいはミッションの奨学金を受けている者たちであることがわかります。学生一人あたり年間約二四ドルかかります。お金をこのように用いて、さらに本校の働きを増したいと願っています。伝道局としてはこのお金をそうした目的のために認めようという見通しがつきませんか。そうなるように心から願っています。奨学金を受けている学生は全員寄宿生活をし、教会の礼拝にもきちんと出席することになっております。おのおの寮の費用のみが与えられ、衣服と授業料は自分持ちです。

計画の中の制度改革については、履習課程を一年短縮し、わが校の学生を従来よりも早く明治学院に送ろうというものです。計画通りになれば、伝道局の返事はたとえ承、ということになりました。近頃でも、ベントン氏に来てもらわなくてもよいことになりました。伝道局がベントン氏雇用の件でなぜちゅうちよしたか、その理由を記した手紙を受取りました。われわれはそれより以前に学習課程の短縮を相談していました。そうなればベントン氏のような教師を一人雇わなくてもやっつけていけます。問題はまだ決定をみていない、今

検討中であり、そのうちにもちろん結果はお知らせします。

一月一五日、一六日付私宛私信の入った長い手紙は六日前に届きました。その後一月二九日付のあなたの手紙がアレグザンダー師の手を経て届きました。ヘイズ氏は一月一六日の手紙の時に小倉行きに大いに期待しているようでした。ところが一月二九日発信の手紙では、それがきわめて疑わしく思われました。二日後もう一通の手紙が横浜に届くはずですが、その時にはわれわれの提案に伝道局としての明確な解答を示して、長いこと未解決であったこの問題に決着をつけていたのだきたいと願っています。結果がどうであろうとその決定は主がなされたものであると将来わかりますように。

ステーション全員元気です。テラー氏の長女がここ一週間ほどジフテリア熱で喉を痛めています。今は大分良くなっています。われわれの働きは相変わらず遅々たる歩みをしています。福音伝道に對する無関心は以前にも増して大きくなっています。仏教の僧や役人階級の放任主義に上手にのせられているのです。

敬具

主にあつて

トス・シー・ウィン

ニューヨーク市五番街五三番

神学博士アーサー・ミツチエル牧師あて

一八九二年八月三日  
金沢にて

拝啓ミツチエル殿

金沢ミツションの支出金に関する手紙がこの前の郵便物で届きました。それをただちに軽井沢に転送しました。金沢ミツションのほとんど全員が軽井沢に避暑に出かけているのです。十分に時間をかけて内容を検討できませんでしたが、本部がわれわれの事業の必要性を叶えて下さったことに対し感謝いたします。主の民がお与え下さったものを用いるのに、主を崇め主の栄えをあらわす用い方が出来すように、主の助けを祈ります。

宣教師会議についての手紙はきつとお手許に届いていることでしょうか、ここでは報告する必要はないでしょう。しかしミス・ラファティの件については私から本部に手紙を書くように任されております。昨年の年次総会の席でミス・ラファティを金沢ミツションの一員として再任するよう求める動議が可決されたのはご記憶でしょうか。先月の会議ではこの動議が承認され、そのことにつき本部に手紙を書くよう私が依頼を受けたのです。

卒直に腹藏なく申せば、ミツションが送ったそのような案を本部がまったく無視してしまうのは、きわめて異様に思われます。このように言っても、本部はわれわれの要求に応じるべきである、と申しているではありません。ただ何らかの解答をいただきたいものである、と申し上げているのです。ミス・ラファティに給料は支給する、というのでは返事になりません。というのは昨年の会議でミス・

ラファティ再任の動議が可決される以前にそのことは決定をみていたのですから。さらに給料についても彼女を今回再任する金額として昨年と同じというの答になっていない。本部としては、彼女の雇用を一年にするつもりなのか、二年なのかわれわれにわからないからです。

よくご承知のことでしょうが、彼女は結婚の問題で辛い思いをした後ですから本部によって自分がどのように扱われるかについてきわめて神経が過敏になっていっています。ミス・ラヴランドがアメリカに帰国したあとを彼女はよく勤め、実際誰れもが彼女はよくやっている、と思っているのです。しかし時間がすぎるのにボードからは何もいってこない。彼女としてはすっかり仕事を辞めてしまうことも出来ず、ただ切羽詰まってわれわれが説得するので留まっています。彼女の目には本部が無関心な態度に見えるので心を痛めています。われわれもあれ以上学年末まで残るよう説得するのは困難でした。ミス・ラファティの場合は特別の事情があるのだから、彼女には早目にはつきりした返事をするよう気をつけなければなりません。ミス・ラファティで再度可決された動議についてこのように回答を求めても、われわれはその内容につきあれこれ指図するつもりはなく、ただわれわれの意見を申し上げているにすぎないのです。本部としてミス・ラファティに代わる誰れかをこの学校に派遣するつもりがないならば、ミス・ラファティを宣教師として任命するのが賢明かと思えます。彼女を任命するのでもなく、契約期間も明確にしないとすれば、あまり長いこと彼女をわれわれのところ留めておくことはとても無理でしょう。他のグループが彼女を雇用したいと言っているからです。そうした場合その影響を受け小学校の機能が麻痺してしまいます。先月アメリカン・ボード・ミツ

シヨンから便りがあつて、もし彼女が希望すれば雇いたいと言つてきました。彼女にそのチャンスが開かれている訳です。もしボードがミツシヨンの動議に答えて何らかの配慮をしないとすれば、彼女はきつとその招きを承諾することでしょう。本部として彼女の働きを望まず、誰れか他に派遣予定の婦人があるならばもちろんその決定に不服を唱える考えもまた権利ありません。しかし本部が彼女を今の仕事に留めておきたいと思われるなら、実際彼女はこの仕事できわめて有能な働きをしている訳ですが、それならば本部が一年以上前からわれわれが求めていることに対して何ら答えなかつた事実に不満をもっております。そのようなわけで早急にこの問題をなんとかして、いかなる処置ができるか、すみやかに返事を下さいませんか。

遺憾ながら先月私は病気でほとんど床についていなければなりません。私の病気は今のところそう重いということはないのですが、昔の病気が再発してしばらくは完全に仕事を休む必要があるし、長期の働きに備えて十分に健康でありたいのです。十三年前に三ヶ月間の休暇を取つたら病気はすっかり良くなりました。わき腹の痛みはなくなつたのです。ここ十三年間というものの徴候がなかつたのですが、数週間前にまた痛みがもどりました。

この夏には金沢ミツシヨンから富山に二、三の青年を派遣しました。その一人が一週間ほど前に戻ってきました。彼に対する反対や非難が激しくなつたので、地元のクリスチャンたちが彼は当分富山を後にした方がよいだろうと判断したのです。

今朝小松の伝道師がやつてきて、いろいろなことを話していきました。話の中で、受洗を希望している女性がいること、家主はその女性がクリスチャンの仲間に加わりそうだと知つて、もうこれ以上家は貸さないといつています。

嬉しいことに大聖寺では（大聖寺の伝道についてはあのように困難である、と報告しました）。説教のための新たな場所を借りて、最近では恵まれた集会をしています。

私の家族も、金沢にいるネイラー夫人も皆元気です。ふたたびあなたが執務がとれるようになったと知つて喜んでおります。主があなたの健康を支えられ、これからは長くこの働きが出来るように守りたまえ。

敬具

トマス・シー・ウィン

一八九二年十月十日

金沢にて

ニューヨーク五番街五三番  
神学博士アーサー・ミツチエルあて

数日前にミス・ラファティの件に関して記された手紙を受取りました。その日のうちに見せましたところ、彼女は本部の決定を十分に納得し、あなたの手紙の口調にも大変感謝しておりました。親切なあなたのことばに心から感謝を申し上げてほしいとのこと。これでもって今度交わされた契約の三年後までにミス・ラファティおよびミツシヨンの双方ともきつと満足のいくよう万事解決するものと思つております。

あなたの手紙の書き出しをあのような愛の込めつた親切な言葉で始められ、私は大変感動しました。短期間でしたが金沢をお訪ねい

ただき本当に嬉しく思いました。あなたも楽しんで下さったのなら嬉しいです。この夏はしばらくの期間ために静かに休養をしてみようと思ってみたら大変良かったのです。私はすっかり、そう、私にわかる範囲ですが、病気が良くなりました。もしあの時休みを取らなかつたら、激しい痛みを我慢しなければならなかつたでしょう。それがさらにいつまでも仕事の妨げになつたでしょう。長いことそのように苦しんできました。完全に休んでしまうのが私の病気には唯一の利き目ある薬である、と日本に来てから初めて知りました。我が身と我が物すべてを御栄えのために用いたいと願っておりますが、しかしミツチエル先生、私はあなたが思つてらっしゃるほど高い評価を受けるに値しない者であります。その通りなら嬉しいのですが。恵みの座を前にした私のことをお考えの時には、まことに神に仕え、そのほまれにふさわしいものになれるよう私のため特に祈り下さい。

この前の予算見積り作成の時、会計用の書き込み用紙を用いなかつた理由について説明させて頂き、ミツシヨンの会計係ヘイワース氏はいつもグラス氏と連絡を取り合つていて、その用紙を使わないうようにと言つてくれたのです。彼の話では、予算書作成の様式について本部として完全には定まっていなから、ということでした。そこで本部が最終的に決定するまでは引き続き従来の区分けと下位区分によるのが便利だし、それにわれわれの証票書類とも一致しているからです。私がこのように書くのは、それがまつたくわれわれの側のミスであり、あなたに大変余計な仕事をさせることになつたとおっしゃるからです。そのことに対してはまつたく申訳けないと思つています。本部のそれではなく、ミツシヨンの会計係の指示に従つたのは陳謝したいと思います。

金沢の学校の日本人理事たちが今いる日本人教師たちよりもつと学歴の高い教師を確保せよ、とこのところしきりにわれわれに迫ります。それをするにはメキシコドルで一年に三百五十から四百ドルかかります。わが校の三五人の生徒に対して、この学校を維持するために本部からこれ以上お金を引出すのははたして賢明かどうか疑わしく思われます。しかしそのような人物を得ようと努めないのはことによると誤ちをおかしていることになりはしないか、と今思うようになってきました。それについて妻と私の考えている案を申し上げたいと思います。あなたの個人的見解を承りたい。私たちの学校に名声をもたらすよう、そしてこのようなことは今までやったことがないのでそのような教師を雇う費用を本年と来年の会計年度の負担にしようと思つていのです。それはその時期の終りに学校の予算の増額をしてもよい、さらにステーションの皆に委託を受けるとらの話ですが。もし金沢の皆が予算の大幅増額を要求するほど学校にとつて優れた大切な人物であると感ずるなら、本部としては次の会計年度の終りから金額の追加が認められるとお思ひですか。私たちに学校を援助できる力があるのだと思うと感謝です。そして願つてゐる大目的を前進させるためにお金がそのように用いられるのなら、それは私たちの大きな喜びです。私たちは建物と学校の寮を増築しようと思つています。しかし寄宿生が一二名を越えない限り余分の部屋はいりません。もしもそれと同額が学校建築用に使われるのなら、学生数をふやし新しい寮の方は何らかの資金から得られるものと思ひます。この件はミツシヨンの宛の手紙では触れないようにして別の用紙に書くか、あるいは別の手紙で早急にお返事下さい。

トマス・ウィン書簡 その二

メリーが昨年六月に帰国したのはご存知でしょう。今はイリノイ州ゲールズバーグ市ローゼイ通り四四九番、妻の兄マシュー・シー・ウィラード家に同居しております。もしあなたか奥様にお会い出来るならば娘は大変喜ぶことでしょう。そしてウィラード家としてもあなたを心から歓迎することでしょう。メリーはノックス・カレッジのアカデミーの生徒として今のところは立派にやっております。二年後に大学部に入ります。彼女は心では家を慕い、感じ易くなっています。主イエスのためには家族と別れて暮すのに健気にも耐えています。母親に仕事を離れて一緒にいてもらうよりも自分一人が本国に行く方がどんなに良いかと彼女は思っているのです。あなたも娘の家を訪ね、出来る時にいつでもいいから会っていただきたいのです。

私はグラント氏が外国伝道に専心しておられるのを知って喜んでいました。彼がこの地を訪問してくれて本当に嬉しかったです。彼にはすぐにも手紙を書くつもりです。クリスチャンでない人々の間に福音を広める仕事が出来るとは何と恵みでしょう。

ダレス氏を通して私の父が亡くなったことお聞き及びでしょう。八月二六日午前七時三十分のことでした。インフレエンザのために倒れて一年半になろうとしていました。ここ数週間はつい衰弱してしまいました。神の恵みにより病気の中にも、あらゆる邪悪と死に對し勝利しました。彼の最後はまことに平安そのものでした。だから悔まれることは何もありません。しかし父は永遠の国へ行ってしまったと思うと説明しようのない不思議な悲しみに何度となく襲われます。彼は善良な人物で、その思い出は大切なものです。

あなたと奥様のために私たち家族の写真を同封いたします。小さな写真に写っているのはマールです。それを取ったのは二才の時

した。

奥様にも呉々もよろしくお伝え下さい。

敬具

トス・シー・ウィン

一八九三年一月八日

金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番地

神学博士ジョン・ギレスピーあて

拝啓 数日前あなた宛に手紙を書いた後で、お手紙を拝受。ミス・ケリーが日本に任命され金沢に配属の予定であることを知りました。そのように優れた婦人がこのように早く見つけられ私たちの伝道地に当てられるのを知って皆喜んでいます。こちらに來られれば心からの歓迎を受けることでしょう。これは保証します、とお伝え下さい。

両方の学校における聖書の授業について、一点を除いては事態の変化がありません。県の方から二度目の通達がきて、それは日本人校長の解釈によれば教室で聖書の講義をしてもよい、と判断できるというのです。本校のいつもの授業形式は講義によるものでした。本日（新学期）から引続き教授を行いますが以前のように講義に基づいた復唱を命ずることは出来ません。

聖書の授業に規制を加えられることに対しいかにして撤回させるか、その手続き方法については一致をみていませんが、早急にまた賢明に取りかかります。もし事態に変化が生じたなら次の便で必ず

お知らせしましょう。目下この問題については考慮中であるが、学校を閉鎖するよりはむしろ講義に基づく復唱を一時的に行わないようにしようと思います。やがて聖書が何ら制約を受けない書物として、わが校のカリキュラムの中の位置を取り戻せるものと確信しております。

今月一日付の手紙は急いで書いたので統計表の中の報告で一個所訂正するつもりだったのを忘れてしまいました。金沢の有資格牧師毛利氏の給与は全額ミッションよりの支払いで、一二円を受取っている、と書きました。それは間違いでして、どうしてそういうことになったのかわかりません。彼の場合月八円をミッションから、四円は殿町つまり金沢第二教会から受け取っているのです。

ステーションの者は皆元気です。ただしヘッサー女史は健康がすぐれず、めったに外出することもありませんが学校の仕事はしております。

次の聖日第一教会では聖餐式が行なわれ入会希望者が数名おります。後ほどまたご報告いたしましょう。

追伸

受洗希望者の中に聖日を守れない立場の者がおります。聖日に、時として役所の勤務に就かなくてはならないか、あるいは聖日が休みなのは例外であつて規則上は休めない立場の者がいるのです。そのような場合どうしたらよいか、今までに本部として宣教師たちに指示した前例がありましたか。洗礼志願中の二人がこの難しい問題をかかえているのです。その他の点では、心から神を信じイエス・キリストを受入れているように思われます。そのような立場の人に

トス・シー・ウイン  
敬具

対してかつて私が行なってきたよりもっと寛大にしてやりたい気になつて居るのです。また、厳しい規則を定めるのは非常に困難であると思われます。もしも伝道局に何か見解がないのであれば、あなたの考えをメモの形ででもお聞かせ願いたいです。

ティー・シー・ダブリュー

一八九三年二月十日  
金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番  
ダブリュー・ヘンリー・グラントあて

拝啓 グランド殿

この手紙で緊急議案を送ります。それは当地のポイズ・スクールについての案をミッションが賛成し可決されたばかりの議案です。内容はこの学校のために一、四五〇米ドル特別支出を求め、次の会計年度（一八九三年五月一日に始まり九四年四月三〇日に至る）の経費です。

このような動議をミッションに提出し、本部に対してはお金の支出の承認を求めるのが手続きとして変則であることは承知しております。このような場合、お金の請求は正規の年間予算見積作成の時期まで待つようにと指示されております。このような多くの要求が世界各地から寄せられ、本部が財政困難におちいるだろうとは十分理解できます。それにもかかわらず、このような特殊事情と状況下にあるのだから動議を出してもよからうと思つたのです。さらにも

## トマス・ウィン書簡 その二

う一年ボーイズ・スクール問題に取り組み、というミッション決議を本部が聞き届け下さってもよかようかと思えます。この話はもうこれでやめようと思えますが、伝道局には迅速な対応をしてもらいたいと思っています。あるいはわれわれが望んでいるような効果をあげようとするれば、学校のためにはるかに大きな支出が絶対に必要となることをどんなに理解してもらおうと努めても、とても無理な相談であるのはわかっております。

この国ではキリスト教に関するものは何にでも敵対する世論が高まっているのを伝道局は気付いておられることでしょう。特にミッション・スクールはこの学校もそれを感じているのです。このような反動は金沢のわれわれに対しても強まり、過去二年間わが校の生徒数が徐々に減少していることにもあきらかにその影響が見られます。さらにわが校発展を阻むもうひとつの要素として、本校の学科課程が官立学校につながらないという問題があります。私たちが学校を始めた後で官立学校が着実にしかも驚くべき発展をとげているのです。そういうわけで以前は学校を始めるために許可をとり、生徒を確保するのは比較的容易であったのに、現在では、そのいずれも困難になっています。政府の管理によらず、したがって学年ごとと規定外の学習課程によっている学校においてはそうです。わが校は正規の中学とも高等中学のいずれでもなく、その中間に位置します。そのため学校を卒業した後、この地の公立学校で続けて教育を受けようとしても、それは困難なのです。われわれの学校の方が公立学校よりも優れた英語教育を授けているのですが、今では英語ブームが去って、学生たちとしては本校の授業課程よりもむしろ政府の定めたものの方が良いと思うようになったのです。それだけでなく、学校のためにほとんどお金を使わなかったので、教具、器具

その他の点で魅力ある学校にすることができなかつたのです。今いる教師陣も皆安い給料で雇える人たちばかりなのも、他の教師を雇うお金がなかつたからです。こういった事情と学生数に限界がみえてきたこととの間に大いに関連があります。もしも学校をこのまま存続させるなら、(ミッション内部でこの学校は続けるべきでない、と誰が言っているのか、私は知りませんが)はつきり言えることは、もつとお金をかけて教師陣を整え、理科の初歩を教えるのに必要な器具を十分に揃えなければならぬということです。学科課程も官立の中学に相当するように変更しなくてはなりません。このように改善を加えることが、生徒層にとつての魅力に他ならないのです。これを実行するとすると、英語の授業数が少なくなり、従って、学校教師として滞在旅券を得ている宣教師たちは直接宣教伝道活動のためにもつと多くの時間が当てられるので、本部としても大いに得になると言えるでしょう。そこで改革によつて学校特別予算は増額されることになるが、実際はこの学校のための支出額が少なくなるのです。つまり外国人宣教師が毎日教室で授業をする時間が少なくなるからです。

こういうわけで通常の伝道局の指示による年度末を待たずに、今請求しなければならなかつたのです。この町には数年前から正規の中学校があります。仏教の真宗派の高僧が資金援助をしてきたのです。その学校が三月の末に閉校されることになりました。資金不足のため、というのが公にされた主な理由です。町にはもうひとつ官立の二年課程の中学校に相当する学校があり、来年六月以降援助を打ち切られることになっています。これも財源不足が理由です。こうなると県内には放り出された学生たちのための学校がひとつもなくなるのです。数年前に当時の森文部大臣が金沢に来た時に、県に対

して中学校を作るお金を使わないように、と勧告しています。大臣は金沢の宣教師の働きから判断して、中学校設置は彼らがするであろう、と述べています。その結果県としては中学レベルの学校を設けなかったのです。

当地の有力新聞も長いことわれわれが計画した方針を支持してきました。多くの役人が、われわれ宣教師の手でやるようにと期待を表明しています。だからこの改編は多くの上流階級市民により印象を与えることだろうと思われまます。

事情を知っている人たちの話では、もしわれわれの学校を正規の中学校に変えようというのなら、県としてはそのレベルの学校には取りかからないであろう、というのです。私立の中学校も金沢では始められないのは間違いありません。

この地の若者たちのために教育事業として何事かをするように召しがあるとするならば、まさに今という時がそれである、と強調してよいと思います。同時に、上に述べたような事情なので目の前の好機会が、かつて知っている、どの時期よりはるかによいチャンスなのです。もしわが校を中学校程度の役割をするものに出来るとすれば、是非ともそれをすべきであると思えます。驚くべき主の導きによつてわれわれの前に開けた機会に加わらないとすればそれは大変な誤ちをおかすことになりましよう。私は今神の導きと申しましたが、本当にそのように思われませんか。日本のこの辺りの仏教徒たちは、ここが彼らの勢力の強い地方のひとつであると広言しているにもかかわらず、事実上神が政府をして次のように言わしめているのです。「十四才から二十までの男子の教育はあなたの方の手に任せする用意がある」と。仏教の中で一番勢力の強い宗派の高僧による後援を受けていた学校が閉ざされ、それによつて青年たちのた

めにわれわれがしようとしていた事業の最大の妨げになっていたもののひとつが取除かれることになるのです。前途に道が開け、その道を進み、神を知らぬ人々にまことの神を知らせる上での最重要拠点を占めることになるでしょう。われわれの学校を立派なものにし、中学校という名前をつけてよいと県の許可が得られたら、この地方の青年教育に関する役割はわれわれが担当することになります。政府の示す教育課程の概要に従つて目の前に開けたこの機会を、引受け損ねたとすれば、それによつて被る威信の失墜はどんなことをしても取り戻せないでしょう。もしも何らの改善もしないままこのチャンスをおぼしてしまふとしたら二度とふたたびわれわれに道が開けることはないでしょう。われわれの前途にそのような好機が巡つてきているのに、また神が現在および来るべき世代の青年を獲得できるようにと力を示していて下さるのに、そのようなことは引受けられない、と言ふべきなのでしょう。神が「汝ら、その道を歩むべし」と言つておられるように思われるのに、われわれの前に備えられた光栄ある道を見捨ててしまつてよいものでしょうか。もし計画を立て直し、秋には中学校として開校します、と公に知らせるならば、いつもの予算見積り問合せの時期より前の、七月中旬には伝道局として来年度の予算にいくら認めるおつもりなのか知らせていただくなくてはならないのです。手紙に書きましたからお分りのことと思ひますが、そのような事柄の公表には三月の終りか四月の初めまでにするのがきわめて重要なことです。新規に中学段階の学校を始めるよう準備を整えるためには、結果を七月以前に知らせてほしいのです。それより遅くなると県から必要な認可を得られなくなるのみならず、しかるべき教師を見つけるのもまったく不可能になります。われわれはこの秋に新しい計画に着手できないことになり

## トマス・ウィン書簡 その二

ます。それよりも遅れると、別の者が中学校を始めてしまうことも大いに有り得るのです。そのような事態だけは避けたいと思います。

このようなわけで、伝道局として次の会計年度に金沢の中学校のための予算増を求める動議をできるだけ早急に取りつけてもらいたい、と強く望んでいるのです。予算見積りを通常の時期までのばし、本部の報告を待つとすれば、それによってこの計画自体が完全に、とは言わないまでもほとんど取り返しのつかないことになりましょう。

規則に合わない時期の予算請求なので、妻と私でもってこの目的のために五百ドル寄付させて下さい。そうすれば本部としても多少は対応し易くなるのではないかと思います。この申出により私たちがこの計画にどんなに強い関心と信念を持っているかがわかっています。ただければ大変幸いです。もつともこの寄付を申出る条件として、動議で求めた金額を伝道局が承認すればの話です。われわれが要求しているお金はもう一年このままで学校をやつていけそうなきざりの金額で、そうでなければそのような条件は出さないので。

敬具

トス・シー・ウィン

一八九三年三月二日  
金沢にて

ニューヨーク五番街五三番

ダブリュー・ヘンリー・グランドあて

しばらく前の郵便で、来年度予算の中の金沢ボーイズ・スクール関係分増額の件をただちに許してほしいとのミッション決議についての便りをしました。その中で、県としてはこの県（石川県）の中等教育についてはわれわれに任せる用意があると申しました。県に関する限りその考えは今も変りない、と私は思います。そして個人的な意見であるが、同じ願いを多くの人が表明しております。しかしながらあの手紙を書いた後でわが校の日本人教頭が東京に参りまして、上京中に彼は文部省に行きましたところ、法律と条件が新たに制定されたことがわかりました。それによれば今後いかなる私立学校も公立学校にとって代わることは許めない、というのです。それは過去に私立学校の失敗する例が頻繁にあったためなのです。しかしわれわれが中学程度の学校を作り、その必要条件を満たし、中学校という名を与えられることに対して何ら異論はありません。このことをもつと早くお知らせ出来ずに申訳けなく思いますが、この手紙は上に述べた教頭が戻つてから最初の便りになりますから。

ミッション事務所書かれたあなたの手紙二、三日前に届きました。私共のところを後にされてから二年、いや三年近くになります。が、それ以来初めてではないにしても、ニューヨークからは最初のものです。金沢の学校をどうするつもりか私の考えを、というお尋ねには先の手紙で答えていますので、ここではもう繰り返しません。伝道局はこの学校にもつとお金を助成すべきである、と私が以前書

きました時と同じくらい強い信念を今ももっています。もつとお金をかけなければ日本人にとって魅力ある学校にはなりません。学校を魅力的にする、いやもつと正確に言えば日本人の尊敬を受ける学校にしなければならぬ、というあなたのお考えは私の意見と大いに一致しています。もしもそうでないなら、この地域で教育事業を行うなどという考えなどいっそ放棄した方がよいでしょう。

レナード氏の主事医が彼に断固帰国命令を出した、と聞いてわれわれと同様にあなたも心を痛められていることでしょう。海外宣教の仕事に戻れるという希望はありません。あのように優れた人物がちよūd取りかかったばかりの仕事から離れなくてはならないとは何と残念なことでしょう。誰れか彼の代わりをする人物が遣わされますように。

ベントン氏は一二月にインド経由で日本を去りアメリカに向いました。帰国後の彼の住所を知らせて来ませんが、数週間後にはニューヨークの伝道本部にきつと姿を見せるだろうと思います。

ブリッグ事件の検事団の一人、ランペ博士に会いましたか。ランペ夫人は私の妻の妹にあたるので、あなたにお会いしたら喜ぶことでしょう。ランペ夫妻は結婚してからずっとニューヨークに住んでいます。

最近興味ある人物が聖書を研究したいと言って私を訪ねて参ります。三年ほど以前彼は私の集会に何度か出席していました。その後新約聖書を手に入れたとき読んでおりました。あまり興味もわかず、またよくは理解できなかつたものの、時として聖書を調べてみたいと思う時があつたのです。今年の初めから、ある人の勧めで彼は教会にきちんとやってきて礼拝に出席もしているのです。きのうは自分が聖書を読んで喜びを見出し、魂にいつそう光がもたらされ

てきた、と自分の方から進んで話してくれました。一回元気にしております。

皆様によろしく

敬具

ティ・シー・ウイン

一八九三年五月二日

金沢にて

ニューヨーク市五番街五三番

ダブリュー・ヘンリー・グラントあて

ボーイズ・スクールの支出金に関する手紙二通と、同じ問題についての電報受取りました。すべてのことに感謝しております。お願をした金額が伝道局に聞きとどけられて私たちは大変喜んでおります。というのは手紙に書いた内容の変更をしなければならぬのですから。われわれはできる限り速やかに計画が達せられるよう準備を進めております。その内容は後日お知らせします。

私の手紙では計画の変更点、つまり請求したお金をどのようにつかうつもりかという問題が明確でなかつたのでしたら申訳ありません。現在の教師数に少なくとももう一人を加え、教員増を計らなくてはなりません。その次に現在学校にいる何人かに代わつてもつと有能な教師を雇う必要がありそうです。従つて給料も高くなります。もつと実験器具も購入しなければならぬし、化学やその他の実験ができるように教室を設備しなければなりません。九月までは新し

## トマス・ウィン書簡 その二

い学科課程を始められないのだから、必要となる給料分がその他の使い道に当てられるでしょう。今私の手持ちの金額が百二十七ドルあります。これは最近、特に何のためにと指定しないで送られたお金です。このお金を器具購入に当てようと思います。実験器具を買うお金はこれ以上はいらなと思います。確かなことはわかりません。このお金を寄付した人の功が認められるようにしなければいけないと思うのです。そこでその人たちに功ありとするならば、学校のために伝道局が議決した千四百五十ドルを越える特別贈与をお認め下さい。私がこのように書くのは、それが特別贈与になるようにと、いうのが寄付をして下さる方々のお気持ちであり、さらにそのことを報告するつもりが全くないからです。このような条件で、それも伝道局の受取る全体の額に入れたいとお考えならば知らせて下さい。

この学校のために伝道局宛に申込みを受けている寄付内容についてはありのままに示そうとしました。その寄付を千四百五十ドルの一部とするつもりでした。しかしあなたはそう理解してないようだし、本部としてもわれわれが申込みを受けた寄付とは無関係に千四百五十ドルを認めて下さったので、もしもあなたがそれを前言取消しと考えられないならば、今年はそのお金を寄付いたしません。われわれが願っているように学校が成功するならば、続けて学校のために資金を出すところがはつきりします。そうすればそのお金は今年の経営費に当てるよりもさらに好ましいものになります。だが伝道局が望むならば、約束のお金はいつでも払い込んで経営費に回す用意があります。この件につき早目の手紙であなたの考えをお聞かせ下さい。どうぞ別の用紙にそのことを記して、ミッションヤステーション宛の手紙には出てこないようにして下さい。

過去三年間、日本では誰よりも私の体のことを詳しく知っている大阪のテイラー医師は、私がこのまま日本で宣教師の仕事を続けられるかどうか大変疑わしい、と語っています。それに昨年二月金沢で亡くなったメリー・アレン・ウェスト女史を診断するために滞在していた神戸のミラー医師も同様の話をしたので、ミッション会議が開かれる前、急ぎよ願ひ出て数日間（十日）の休みをもらって二人の医者（二人とも優れた医者として認められている）に私の容体を徹底的に検査してもらいました。私の病気はブライト病ではなく、何かあまり重いものではない、恐らく治療が可能であろうという点で二人の意見は一致をみました。専門的な病名は思い出せませんが、腎臓に砂が生じたり、排出されたりする病気です。テイラー医師の話だと早期に治療して直らなかつた病例はないとのこと。テイラー医師は、ニューヨークのナップ医師が私の病状についてそう語ったので、ブライト病と推定していました。ナップ医師は私がブライト病であると言ひ、テイラー医師はナップ博士を大変信頼できる医者だと思っているのです。その病気に間違いない、と結論を出しました。この仕事を続けて出来るとは私にとって何という大きな喜びでしょう。医者たちが私に金沢を去ってアメリカに帰るよう命じるのではないかと大変心配しておりました。私は医者があのような判断を下すことができ感謝しているのです。再びずっと定住ができます。

五月一二日付のフルトン氏からの手紙の中に、彼宛のあなたの手紙が入っていて、その中であなたはわれわれが金沢において行なっている種類に代わって伝道者養成の学校を作った方がよい、と伝道局の考えを繰り返しておられます。あの学科課程以上に望んでも何も出来ないように私には思われます。これ以上伝道者のための学校

を作るのに反対を表明する二つのミッション合同の会で、全員一致、大変強力に反対決議がなされました。現在われわれの合同教会関係には三校（神学校）があるのです。それでもってわれわれの必要な数としては十分です。その上にそのような学校を続けてゆくのには、どこから伝道者がやってきますでしょうか。この地方で十分な数を集めることは出来ないし、他の学校をやめて神学教育を受けるためにこちらに来るよう説得もできない。私たちの学校では、伝道者が行く先で支えが得られるように、と神学コースを取る学生たちでいっぱいになることは出来るでしょう。もし彼らを引受け、伝道者となる準備期間中の生活費を支給するならば、彼らに勧めて志を起こさせうる貧しい青年はたくさんおります。そのようなコースを学ぶとお金が得られるからです。しかし私としてはそのような牧師を育てるために何かをしなくてはならない、とは思わない。他の誰れもしたくないでしょう。この地方には私たちが開いている類いの学校が本当に必要なのは、そのことは私の目に明らかです。私たちは数名の学生にたいして、彼らが学校の用事をしていた時に援助をしてきました。しかしコース終了の時点で、牧師として相応しい青年たちを援助したのかどうか、その誤ちをおかさないようにするのはまったく不可能であります。はたしてその者たちを奨励して牧師になるように神学校に進ませるかどうか、私たちの学校を卒業する時にははるかによく判断がつきます。この種の学校では、どの人物が有能な牧師になりそうか見分けることが必要になります。政府の学校で教育を受けた者たちの中から牧師になるための十分教養のある者の数を確保するのもまた、まったく出来ない相談です。牧師が十分教育を受けていることが一昔前よりはるかに必要となつています。牧師を養成する機関としては、今度の計画と方法でもって私た

ちの目的が達せられると思えます。学校を始めてから一六名の卒業生を出し、それに今学期の終りには二名が卒業予定です。この一八名のうち一四名がクリスチャンで、六名が東京の神学校に行っております。秋にはさらに二名行くことになっていきます。神学生のうち五名は私たちの学校に入学した後クリスチャンになったのです。卒業生の中のクリスチャン総数のうち九名は入学後教会に来るようになりしました。その他に卒業はしなかったが洗礼を受け、現在各地で主に仕えている者がかなりの数おります。私たちはこの学校と小学校の二つの卒業生に、教育事業としては最もすぐれた援助をしてきました。彼らは主なるキリストのためよい働きをしています。このうち最も善良なる者たちはおそらく牧師になれるだろうし、なろうとしているのです。

現在のところその成果は小さいが、われわれははるかに大きなものを望んでいるのです。それでも私たちの努力は決して無駄ではなかったことがわかります。最善を尽し、将来続けてよい結果が見られるように願うものであります。

今年には学生の数は少ないけれど、今までにないよい実りを、また青年たちの回心を見ています。本校のカリキュラムは、この学校を卒業してすぐ、行きたい者は誰れでも東京の明治学院に行けるようになり取り決めてあります。本校と明治学院との関係を変更するつもりはありません。明治学院への進学を考えない学生も出来るだけ受け入れられるように変えていこうと私たちは願っています。そのようにすれば、さらに多くの学生を集めることが出来、学校に来る者全員に聖書の教えを広げることが出来ます。その人たちに救いに至る道について十分に教え、真理を命のかおりとする聖霊の御手にその人

## トマス・ウィン書簡 その二

先の手紙で私たちの学校は正規の中学校に変えることは出来ない、また金沢には近い将来もうひとつの中学校がまちがいなく出来るだろう、と書きました。当分は大きな学校は期待できません。現在は国中のミッション・スクールが辛い試練を経験している時期なので、閉鎖寸前の学校もあります。しかし教会の働きのために青年を教育する所が必要とされます。前にも述べたように、伝道者養成をはつきりと打出すよりも、現在のこの学校のような所においてこそ教会に必要な多くの優れた人たちを養成できると思っているのです。今、直面している困難が通りすぎるまで忍耐と勇気とが必要となることでしょう。しかし伝道局が私たちを支えて下さるのなら、やがてこの学校にもっと多くの学生と多くの励ましが見られるようになると信じています。

ハイワース氏あてに、私たちの所へ戻ってこないか、と書きました。あなたの手紙によって、それが疑わしいのではないかと思いましたが、私たちは最善と思われることをなして、その結果は神に委ねましょう。

敬具

トス・シー・ウィン